

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3070103902
法人名	株式会社 河北食品
事業所名	千代の里グループホーム
所在地	和歌山県和歌山市延時84-1 (電 話) 073-456-3312

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年12月11日

【情報提供票より】(21年10月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 18人, 非常勤 4人, 常勤換算	16.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨・耐火 造り
	3 階建ての 1 階 ～ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 250 円	昼食 450 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり	円	

(4)利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 78 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中江病院(内科・外科・整形) ・野上歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームでは認知症の進行予防や改善を目指して、月曜日から土曜日までの昼食後約1時間、利用者を前にして事務長により「朗読会」が行われている。利用者は首の運動や短歌の暗唱、暗算をし、また当日の新聞や和歌山の歴史・民話などを一方的な読み聞かせでなくお互いに掛け合いをしながら進められ、これが楽しみながらの脳トレーニングになっているようである。朗読会は利用者に好評で介護度の状態が改善された人もいます。職員は利用者との縁を大切に笑顔で接しており、また食事の盛り付けや味付けもよく工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善事項のうち、地域とのつきあいは努力されているが、自治会等地域活動への参加は行われていない。また運営推進会議も開催も開催されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は職員にミーティングにおいて意見を聞き、各フロアの管理者が取りまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は構成員の確保はされているが開催されていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等が苦情や意見を表せるよう苦情受付け等について掲示し家族等に周知しているが、入居者家族からの意見・苦情は出されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの夏祭りに地域の人々が参加し、近辺の中学・高校生の課外教育の場を提供するなど、地域交流に努めているが、自治会等の地域活動へは参加は出来ていない。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が要介護状態であっても生きがいのある生活実感が持てるよう社会から隔離せず人間らしい生活を送ることを支援しますという趣旨の独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回のミーティングにおいて事務長が理念を口頭で話すようにし、職員は自らが過ごしたいと思うホームを目指して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年一回開催している夏祭りには本部の人々の応援を得て模擬店を設営し、周辺の地域にチラシを配り人々が子ども達を連れて参加している。また近辺の中・高校生の課外教育の場としても利用され交流している。しかし自治会などの地域活動に十分参加し交流しているとはいえない。	○	今後自治会などと交流し地域活動に参加するように期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はミーティングで項目について職員の意見の聞いて管理者が取りまとめた。前回の外部評価については、指摘事項を職員に周知し話し合って改善するよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、構成員の確保はできているが、開催には至っていない。	○	運営推進会議の開催を実行して頂きたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、スプリンクラーの設置費補助や介護報酬の改正などについて、出向いて相談したり情報提供を受け運営上の改善に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪した家族には暮らしぶりや健康状態を話すとともに、3か月に1度ホーム便りで利用者の行事等を伝え、健康状態はかかりつけ医の往診で変わったことがあれば電話等で伝えている。また金銭管理は出納の報告書を家族宛に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が苦情や意見等を表せるよう各ユニットごとに苦情受付担当者を置き、また運営規程でも外部での苦情受付窓口を記載し一階壁面に掲示しているが、入居者家族から意見・苦情等は出されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を維持するため、職員の異動はできるだけ少なくするように努めているが、離職があった場合、新しい職員は出来るだけ利用者に接する機会を多くして早く顔を覚えてもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は地域密着型サービスケアネット和歌山、介護普及センター、県社会福祉協議会の研修に参加し、研修内容をミーティングのとき報告し研修資料を保管している。職員は業務の都合もあるが原則順番に参加することができる。また新任職員には先輩職員がついて3週間程度業務を見習ってもらうトレーニングを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加入し、管理者、職員は研修会に参加し交流している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族・本人にホームを見学してもらい、入居後は家族との連絡を密にし協力してもらって、できるだけ転居の不安を与えないようにし、徐々に職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染んでもらいもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とはコミュニケーションをとるように努め、ゆったり一緒に過ごしながらか利用者の経験から料理などの家事を教えてもらったり、共に支えあう関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者の話をよく傾聴することで思いや希望等を把握するように努めている。希望等の把握が困難な利用者には暮らしの状況等で判断したり、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がホームでよりよく過ごすために、平生から利用者・家族とコミュニケーションをとって意向を把握し、月一回のミーティングで職員間で意見を出し合って、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1度見直すとともに、心身の状態等に変化があればその都度職員間で話し合い、本人・家族の意見を聞いて、現状に応じた介護計画を作成するよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて神社の初詣等遠出の外出支援や緊急時の通院の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度ホームのかかりつけ医の往診を受けており、緊急時にはすぐに往診してくれる。また少数であるが利用者の希望で入居前のかかりつけ医の医療を受けている人もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合ホームでの看取りの限界についての話し合いを家族と行っている。かかりつけ医が重度化と診断した場合は家族や職員と入院等の方針を話し合い共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないよう言動に注意している。また秘密保持の同意書にサインし、個人情報を外部に洩らさないよう徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアを目指し、人それぞれの習慣や高齢者特有のペースがあるが、利用者の希望に沿って日々の生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れ栄養も考慮して献立を作成している。利用者は力に応じて野菜の皮むきや配膳、下膳等を手伝っている。介助の必要な利用者には職員は時間をかけてでも食事介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴しており、入浴前に声をかけ希望を聞くようにしている。入浴する時間も希望にしたがい、くつろいで入浴してもらうよう支援している。入浴を拒否する人には時間をずらしたり、相性のよい職員が対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にそれぞれ力や経験に応じて掃除、洗濯物干し・たたみなどの家事を手伝ったり、畑仕事などの役割をしてもらっている。また短歌、編物、ちぎり絵、将棋などの趣味を楽しんでおり、職員は日々楽しく過ごせるような環境づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が敷地内の散歩や畑仕事をして、室内に閉じこもらないように努めている。また外庭に出て軽食を食べることもある。当日の職員の出勤者数にもよるが利用者の希望により近辺の花見やドライブ、買い物など外出の機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は昼間は鍵をかけていない。帰宅願望のある人は、職員が後をついて行ったり、編み物など気晴らしに注意を向けたりして見守っている。居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火管理者を中心に職員は休暇の人も参加して昼夜を想定した避難訓練を実施している。ホームは周辺に住宅がなく消防車が5分以内に到着するような立地にある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士に助言してもらい栄養のバランスを図っている。また個人個人の体重の増減に合わせて食事の量を調整している。なお水分摂取は食事以外に午前、午後、入浴後、人によっては夕食後もとってもらい脱水予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の生花をいけ写真や利用者の作った短歌などを掲示している。共同室は壁面に色紙で作った季節の花を飾ったりして季節感を出している。また室内はゆったりしており、明るさもテレビの音量も適当と感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者のなじみのタンスやソファなどを置いたり好みの手芸品や人形などを飾って本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		